

【海外レポート】

ARAHE 2023 に参加して

傳法谷郁乃

神奈川大学工学研究所

1. はじめに

Asian Regional Association for Home Economics (ARAHE) は IFHE の地域組織として、1983年に設立され、今年で40年目を迎えた。2年に1度、国際会議が開催される。

2021年開催予定であったアジア地区家政学会第21回国際会議 (ARAHE2021) は、COVID-19感染症拡大により延期され、2023年8月7日から11日にかけて、マレーシアのクアラルンプールにてARAHE2023として無事開催された。

2. ARAHE 2023

ARAHE2023では「Integrating home economics education and skills towards the new wave of industrial revolution」をテーマに、基調講演、シンポジウム、口頭・ポスター発表、ワークショップ、見学ツアー等が企画された。

基調講演では、今後のデジタル化やメタバースに対してどう向き合うか、家政学の在り方や今後の課題についてお話いただいた。シンポジウムでは、日本家政学会会長である宇都宮大学の赤塚先生より、日本家政学会として、生活者の視点から取り組む、平和で持続可能な社会の構築における家政学の重要性を唱えられ、大変印象深かった。

4日目午後は4つの見学ツアーの中から、独立広場と国立織物博物館コースに参加した。その日は晴天で、外気温は32°C程度であったが日本と同様に多湿環境で、少し歩いただけでも暑さに参ってしまい、独立広場の見学は短時間になった。独立広場は、1957年にマレーシアがイギリスからの独立を宣言した場所で、英植民地時代に建設された旧連邦事務局ビルやクラブハウス等、美しい建築物が立ち並んでいる。見学したもう一つの国立織物博物館も、1905年に鉄



図1 旧連邦事務局ビル

道事務局としてその周辺に建設された建物である。館内ではマレーシアの服飾文化に関して、パティックをはじめとする多様な染織技法の紹介、先住民の衣装や移民族の影響を受けた衣装の変遷、身に着けていた装飾品等が展示されていた。

最終日のフェアウェルランチでは、民族衣装着用可となっており、浴衣を着て参加した。円卓を囲んで美味しいマレーシア料理をいただきながら、各国のパフォーマンスを楽しんだ。日本から来た私たちは『上を向いて歩こう』を歌った。IFHEやARAHEに行き慣れている先生方にとっては当たり前なのかもしれないが、まだ数回で、何をするか把握していなかった私には、突然先生方と舞台に上がって歌ったのはドキドキであった。できることならば次回は予習して挑みたい。その他、カラオケやダンス、ファッションショー等、各国の文化に触れ、楽しいひと時を過ごすことができた。

次回2025年は、フィリピンのマニラで開催予定である。会員の先生方と共に参加し、一緒にパフォーマンスできることを楽しみにしている。

3. おわりに

今回の渡航には、学会で企画されたパッケージツアーを利用した。このツアーのおかげで、国際会議内での交流だけではなく、同じツアーを利用した国内の様々な分野の先生方と交流する、特別な機会を得ることができて大変良かった。旅程の多くの時間を、秋田大学名誉教授の澤井先生、日本女子大学名誉教授の佐々井先生、宇都宮大学の赤塚先生、高崎健康福祉大学の内田先生とご一緒させていただいた。終始緊張しつつも、楽しく、貴重なお話を伺うことができ、これからの研究の励みになった。この気持ちを忘れずに、今後も研究を継続していきたい。

<連絡先>

神奈川大学工学研究所 傳法谷郁乃

Eメール: dempoya@kanagawa-u.ac.jp